

当院における呼吸器真菌症の診断と治療の実態調査 呼吸器検体からの真菌の検出と患者背景と治療の検討

・ 研究の対象

2014年4月から2020年9月まで当院にて喀痰、胸水、気管支洗浄液、肺組織（気管支鏡下生検、CTガイド下生検、外科手術検体）から真菌が検出された患者

2. 研究目的・方法

検査部培養検査結果検索システムを用いて、真菌の遺伝子配列同定検査が行われるようになった2014年4月1日から、真菌が検出された患者IDを真菌別に検索する。また、CLISTAを用いて、肺真菌症、クリプトコッカス症、アスペルギルス症の病名から患者IDを検索する。電子カルテを参照して、患者背景、検査所見、画像所見、診断方法、治療内容を後ろ向きに検討する。

上記検討により、肺真菌症のリスク因子の評価、初診時検査所見からの診断及び予後予測等が可能になることを期待する。これらが可能になることで、肺真菌症高リスク患者への予防投薬や治療強度、期間などの判断をより正確に行うことが出来ると思える。

研究期間：倫理委員会承認日～2025年3月31日

・ 研究に用いる試料・情報の種類

情報：

病歴(併存疾患有無、ステロイド及び免疫抑制剤使用有無等)、
登録病名検索(クリプトコッカス症、肺アスペルギルス症等の真菌感染症や真菌へのアレルギー等)、

CT画像所見(病変の形状、空洞等の肺真菌症に特徴的な所見の有無を確認)、
培養検体(喀痰、気管支鏡検査等の検体から真菌が培養されているか確認)、
血液検査(β -D-グルカン、アスペルギルス/クリプトコッカス抗原等の真菌に特異的な項目が陽性になっているかどうかを確認する他、併存疾患の病勢、免疫抑制などの背景の確認)、

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：荻野 慶隆
高知大学呼吸器・アレルギー内科 助教
電話：088-880-2345 ファックス：088-880-2348

研究責任者：横山 彰仁
高知大学呼吸器・アレルギー内科講座 教授